

スプリンクラー設備と同等以上の 防火安全性能を生む、高性能消火ユニット。

スプリンクラー設備が必要とされる施設において、スプリンクラー設備と
比べた防火安全性能が、同等以上の効果を発揮する「スプリネックス」。
新たな発想の消火ユニットにより生まれた高性能のパッケージ型自動消火設備です。

スプリネックスとスプリンクラー設備の特徴の比較

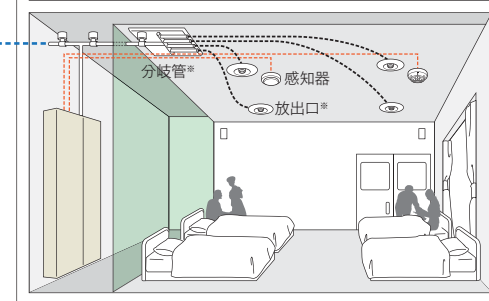
数々のデータが「スプリネックス」の高性能を実証。その消火性能はもちろん、信頼性・安全性などあらゆる面で
スプリンクラー設備を超えています。365日24時間、初期消火をより安全に行う高機能パッケージが、
万一の際に皆さまを守ります。

● 構造とシステムの主な比較

スプリネックス

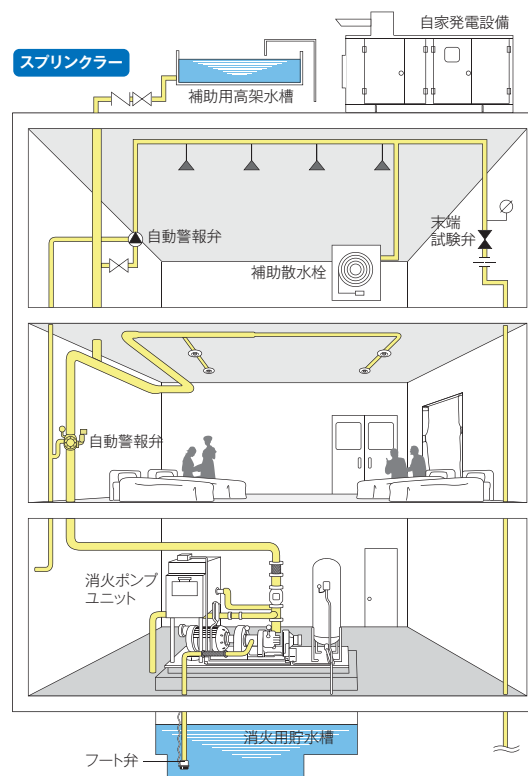
スプリネックスの設置場所

- 階毎に設置する必要はありません。
- 設置スペースが狭い場合や対象範囲が広い場合は、設置可能階の中または、屋上などに分散させて設置することも可能です。
- 本体設置階から配管は直上階1階までです。



※1区画に設置できる分岐管、放出口は4個型と9個型の2種類あります。
設置条件に合わせてお選びください。詳しくは担当者にご相談ください。

スプリンクラー



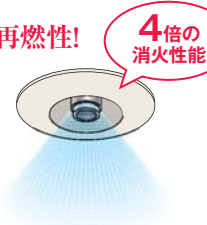
消火性能の高さ

スプリネックス

水の4倍の消火性能で、優れた非再燃性!

※第三種浸潤剤等入り水使用。

消火薬剤は、鑑定基準に適合し消火性能は水の約4倍。冷却効果・浸透性・再燃防止効果にも優れ、スプリンクラーに代わる同等以上の消火性能を条件とする厳しい鑑定試験に合格しています。



スプリンクラー 大量の水で消火。

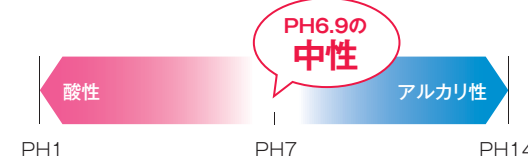
大量の水槽の水(12.8㎡以上/高感度型ヘッドの場合)を長時間放出して消火するシステム。火災通報により消防車が火災現場に到着する時間が約15分とされているため、その間、放射を続け延焼拡大を防げるよう放射時間が約20分に設定されています。

消火薬剤の低毒性

スプリネックス

消火薬剤はPH6.9の中性で刺激が極めて少なく安心!

(財)日本食品分析センターにより、消火薬剤が皮膚にかかったり目に入っても刺激や影響が極めて少ないと判定を受けています。消火薬剤の経年変化も極めて安定しています。



スプリンクラー

消火は水で行うため無害。

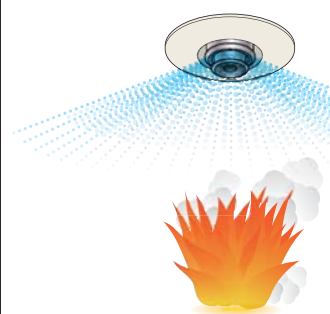
ただし配管内での経年変化により赤サビや腐敗が生じます。

感知スピードの速さ

スプリネックス

感知・消火のスピードが速い!

自動火災報知設備用感知器の使用で火災の感知スピードが速く、火災場所で1系統の放出口が一斉に消火薬剤を放射。初期火災の間に完全消火を行います。



スプリンクラー 一般的な建物火災用の大火災消火システム。

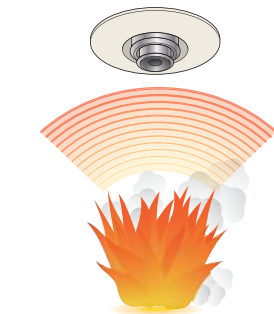
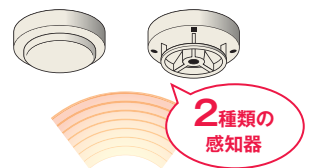
加熱すると開放・放水する感熱分解機構を備えた閉鎖型ヘッドのため、常時止水。感熱部分を分解するのに時間がかかるため放水開始が遅い。

作動の信頼性・正確性

スプリネックス

誤放射の発生率は低い!

感知方式の異なる2種類の両方が火災を感知して初めて本体が作動するシステムなので、誤放射の発生率が極めて低くなります。感知器の一方が感知した際にブザーで火災発生を知らせます。



スプリンクラー

誤放射の発生率は低い。

ヘッドの感熱部分を火災の熱が溶かすまで時間がかかり、火災感知の鈍さがある一方、誤放射の発生率は低い。

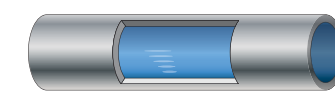
設置条件の柔軟性

スプリネックス 地震に強く、凍結の心配がない!

消火薬剤は本体に貯蔵され配管部分は常に空の状態なので、腐敗や地震による液漏れ・凍結の心配がありません。



スプリンクラー 寒冷地においては凍結防止装置が必要で、地震時の不安も解消できません。



維持管理の簡単さ

スプリネックス

維持管理(点検)が非常に簡単!

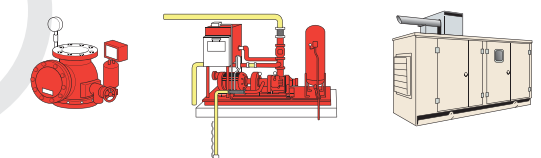
システムの維持管理はボタン操作でも可能ですが、感知器の維持管理が必要。また、消火薬剤そのものは劣化しませんが通常の点検は必要です。
※年2回の法定点検は、スプリンクラー同様必要です。



スプリンクラー

多種多様にわたる維持管理。

消火システムが違いますので、感知器の維持管理はありませんが、水槽・ポンプシステム・自家発電設備など多種多様の点検が必要です。



スプリンクラーと比べ同等以上の防火安全性能が発揮される範囲

● 適用される防火対象物(消防法施行令別表第一、5項、6項)

スプリンクラー設備の設置を必要とする旅館、ホテル、宿泊所、寄宿舎、下宿、共同住宅、病院、診療所、助産所、社会福祉施設、幼稚園、盲聾学校、養護学校など

● 延べ面積

10,000平方メートルまで認められています。

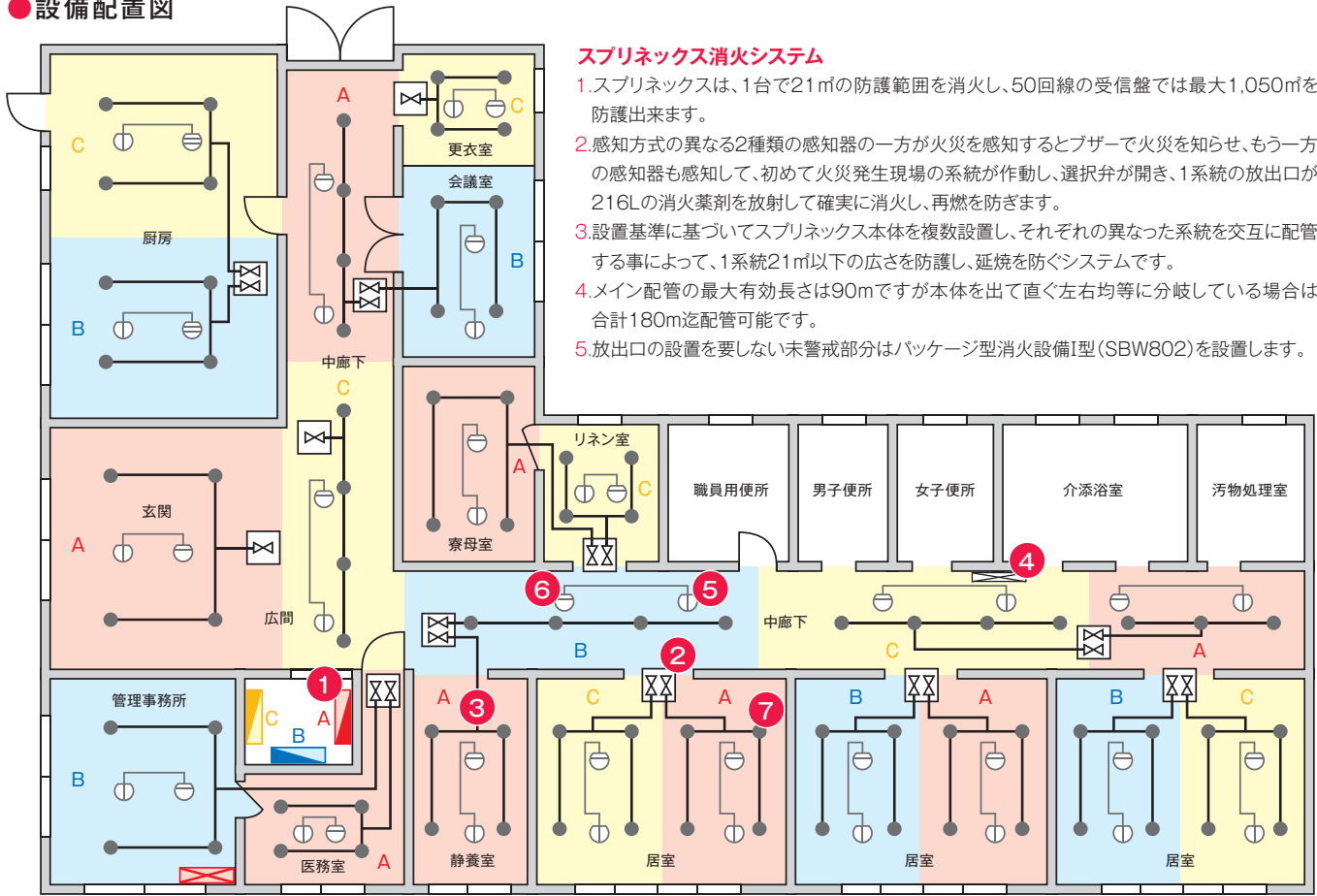
● 建物は新築・増加改築・既設を問いません。

(平成16年5月31日付け 総務省令第92号及び消防庁告示第13号)

スプリネックス配置事例

ご覧の事例は、設置基準にもとづいて「スプリネックス」本体3台を設置したもので、部屋の広さに応じ3台の異なるシステムを交互に配管し、その防護区画を各色で示しています。この配置により1系統の防護範囲21㎡以下の区域の確実な消火と延焼防止を実現します。

●設備配置図

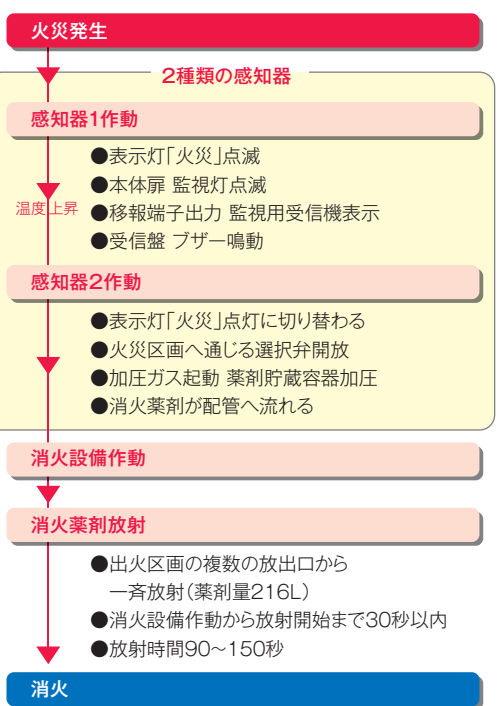


● 本体ユニットA ● 本体ユニットB ● 本体ユニットC ● 受信盤※FSSM500Ⅱ型は受信盤を本体と離れた場所に設置可 ● 放出口
① 定温式スポット型感知器(防水型) ② 差動式スポット型感知器 ③ 定温式(補償率方式)スポット型感知器 ④ 選択弁設置位置 ⑤ パッケージ型消火設備

スプリネックス消火システム

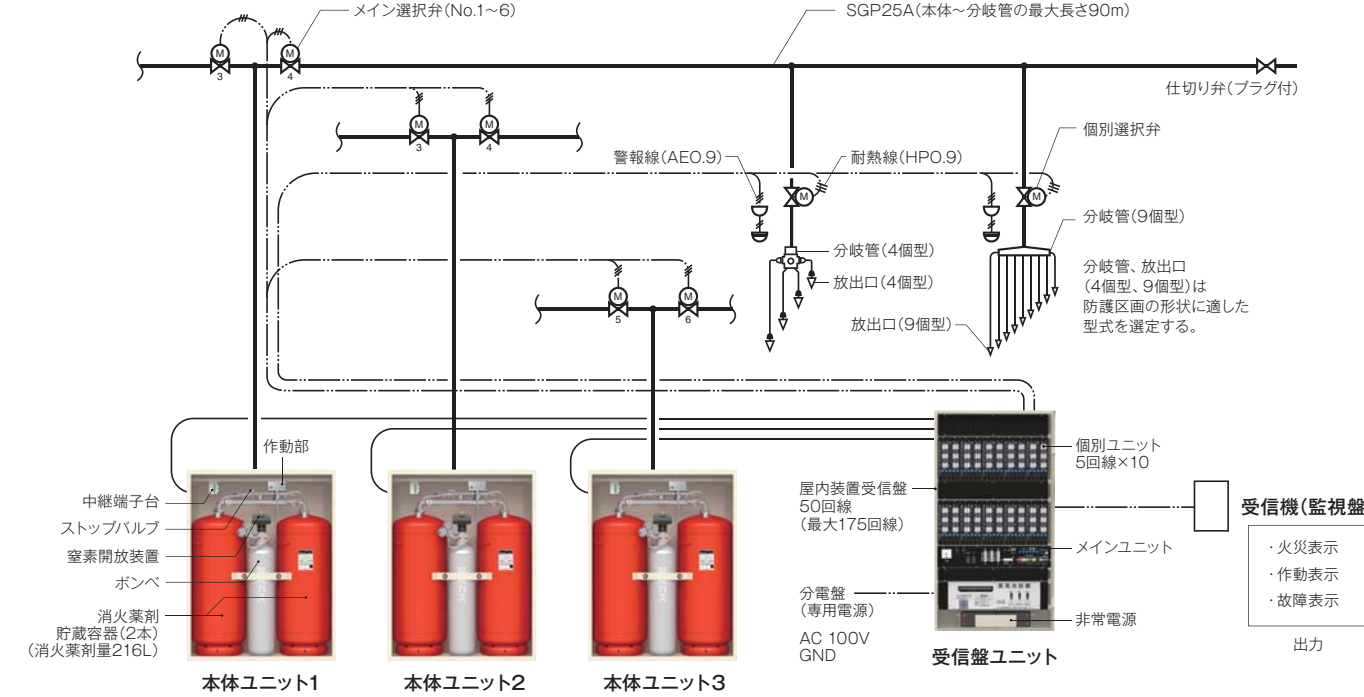
- 1.スプリネックスは、1台で21㎡の防護範囲を消火し、50回線の受信盤では最大1,050㎡を防護出来ます。
- 2.感知方式の異なる2種類の感知器の一方が火災を感知するとブザーで火災を知らせ、もう一方の感知器も感知して、初めて火災発生現場の系統が作動し、選択弁が開き、1系統の放出口が216Lの消火薬剤を放射して確実に消火し、再燃を防ぎます。
- 3.設置基準に基づいてスプリネックス本体を複数設置し、それぞれの異なる系統を交互に配管する事によって、1系統21㎡以下の広さを防護し、延焼を防ぐシステムです。
- 4.メイン配管の最大有効長さは90mですが本体を出て直ぐ左右均等に分岐している場合は合計180m迄配管可能です。
- 5.放出口の設置を要しない未警戒部分はパッケージ型消火設備Ⅰ型(SBW802)を設置します。

●スプリネックスの作動フロー図



スプリネックス系統図

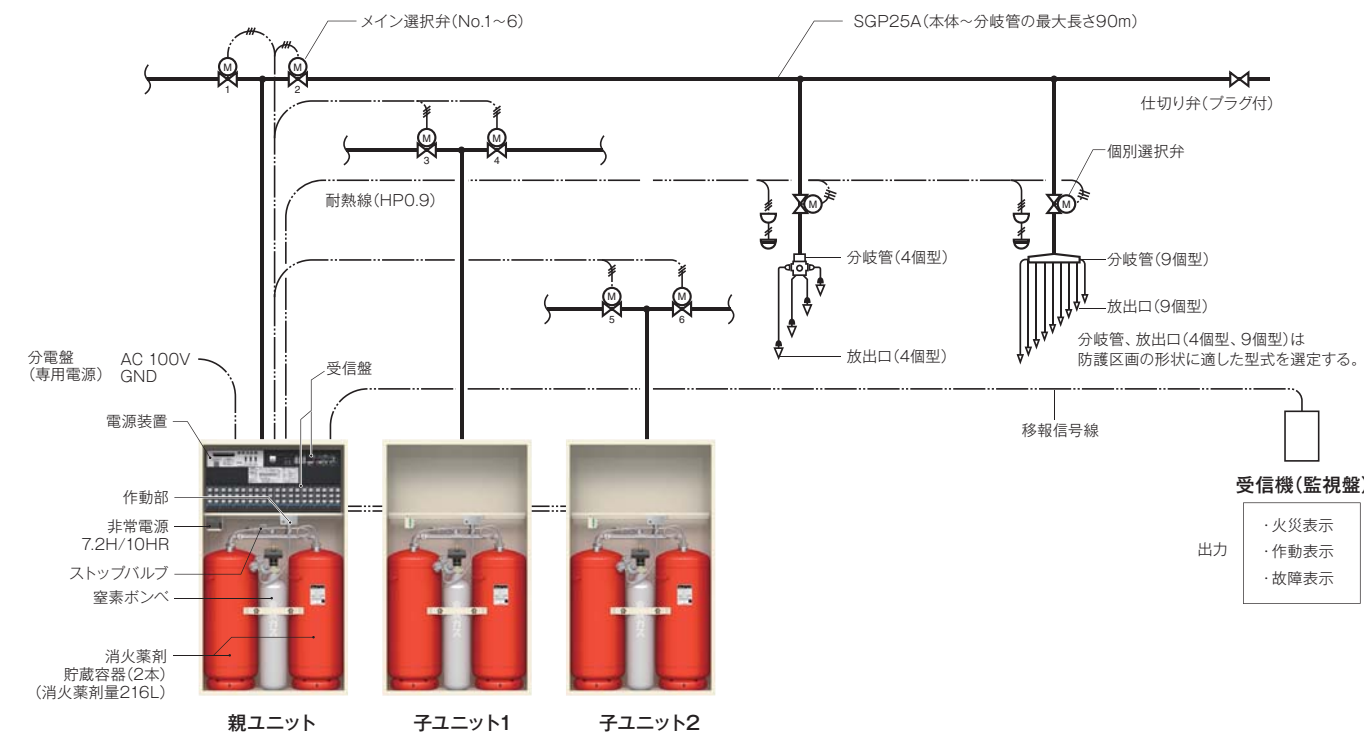
●FSSM500Ⅱ型



- 受信盤は50回線、125回線、175回線の3種類有ります。
- 受信盤1台で本体を3台まで制御できます。
- 受信盤は屋内仕様ですが薬剤容器内蔵本体は屋外仕様も有ります。
- 受信盤は屋内に、薬剤容器内蔵本体は屋外に設置する事も出来ます。
- 175区画を超える場合は受信盤を2台設置する事で対応出来ます。
- 本体高さが低いので階段下等に設置し易くなりました。

FSSM500Ⅱ型		幅 mm	奥行 mm	高さ mm	総質量(架台)kg
受信盤	50回線	550	211	960	51(14)
	125回線	550	211	1,800	85(3.5)
	175回線	1,065	211	1,436	115(6)
本体	屋内型	1,050	450	1,350	460
	屋外型	1,087	560	1,454	530

●FSSM500Ⅲ型



- 本体には親機と子機(受信盤無し)の2種類有ります。
- 親機と子機それぞれに屋内型と屋外型が有ります。
- 本体親機には最大50回線の受信盤と薬剤貯蔵容器が内蔵されています。
- 本体子機には薬剤貯蔵容器が内蔵されています。
- 親機1台で子機を2台まで制御できます。
- 大型物件には親機を複数台使用します。

FSSM500Ⅲ型		幅 mm	奥行 mm	高さ mm	総質量 kg
親機	屋内型	1,050	450	1,800	510
	屋外型	1,087	560	1,910	565
子機	屋内型	1,050	450	1,800	480
	屋外型	1,087	560	1,910	535